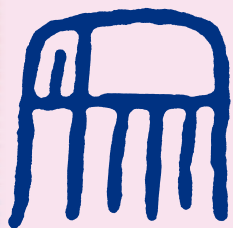


同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 望月 重延
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



大学作品展 2021.2.10 ~ 14 京都市立芸術大学、京都市京セラ美術館
コロナの状況により突然変更されることもありますので大学 HP でご確認ください。

会長就任の挨拶



望月 重延

昨2020年、新型コロナウイルス感染拡大により世界の状況が一変しました。美術界でも三密を防ぐため、公募展を中止する会も続出、美術館に行くにも電話予約が必要など、今までにない事態となりました。

同窓会「象の会」も予定していた総会が開催できず、郵送による書面採決で新役員や事業決算・予算など6議案の承認を行いました。その結果、私が上村淳之会長の後任として大役を引き継ぐことになりました。上村淳之会長には8年間の長きにわたり同窓会を育てて頂き有り難う御座いました。身の引き締まる思いの中、不慣れな私ですが、副会長や代表幹事、会計、監査など役員各位

の助けを得て、同窓会の発展に少しでもお役に立てればと思っております。

現在、京都芸大が抱える大きな課題は数年後に迫った京都駅東への大学移転と、昨年度から起こった旧京都造形大学に対し『京都芸術大学』の名称不使用を求める裁判に勝訴することです。同窓会「象の会」は、前・上村会長が推し進められてきた方針を引き継ぎ、大学移転に必要な設備・施設充実のための募金活動と裁判支援カンパ及び反対署名活動を継続して行います。又、会員の身近に存在し、親しみを実感できる同窓会を目指して参ります。

コロナ禍でどの程度活動できるのか、予断を許ませんが、『象の店』の復活や会員交流などにも注力して参りたいと存じます。

当面の課題としてはコロナにより延期となっております大学移転支援事業である『アートオークション』は2023年1月に開催する計画で現在、準備を進めています。その節には会員各位のご協力を心からお願い申し上げます。

不慣れな事も多々御座いますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

● 上村 淳之会長の退任挨拶は、入稿の都合により次回会報(73号)に掲載する予定です。

Head line

「大学作品展」	1
会長就任の挨拶	1
＜特集＞ 京都市立芸術大学 移転と名称裁判の支援	2
大学の移転	2
大学移転支援募金について 同窓会の皆様へ3つのお願い	2
「同窓会アートオークション」の開催	4
大学名称裁判傍聴記	5
大学名称問題の取り組み報告	5
大学名称裁判支援のお願い	5

新任にあたって	6
退任あいさつ	7
研究室だより 保存修復研究室	8
Relay Talk象の会・いろあわせ ⑫	9
学内消息	10
会員展覧会	10
高林和作展／オンライン芸大祭2020の報告	11
事務局だより	12
編集後記	12

<特集> 京都市立芸術大学の移転と名称裁判の支援

大学の移転 =2023年夏に向け着々と=

本学は、令和2(2020)年、コロナ禍の中で創立140周年を迎えました。入学式の中止や遠隔授業の実施など、あらゆることを手探りで進めざるを得ない状況となり、令和5(2023)年度中の開学を目指す大学移転につきましても、大きく影響を受けることとなっております。

令和2(2020)年9月に実施されたC地区の工事入札は様々な事情から不調となり、12月に再入札され、株式会社竹中工務店が落札いたしました。1月には、A・B地区の入札が実施されることとなっておりますが、ようやく工事業者が決定したことから、いよいよ京都駅東部エリアでの建設工事が始まることとなります。工事期間は約2年半を予定しており、令和5(2023)年夏の完成を目指しています。なお、A地区に移転する京都市立銅駝美術工芸高等学校は同年4月の開校を目指しており、先行して移転を行うこととなります。

これまで、学内での議論を積み重ねてきており、美術学部・音楽学部、それぞれの大学院、日本伝統音楽センターと芸術資源研究センターという2つの研究機関、図書館・芸術資料館・ギャラリー@KCUAの3つの附属施設などが有機的に配置されそれぞれの関係を深めながら、これまで以上に教育・研究を深化させるとともに社会連携にも一層取り組んでいくことを目指しています。

本学においては、令和2(2020)年4月に、学内の各機関が連携し移転を円滑に進めるための組織として「移転準備室」を設置したところ。この間、工事入札が円滑に進まなかったことなどから、具体的な活動を積極的に行うことができない状況でしたが、工事業者の決定に伴い、改めて移転準備室を中心に大学内の移転準備を進めてまいります。

一方で、公立大学法人京都市立芸術大学の設置団体である京都市は、コロナ禍の影響で財政状況が急速に悪化しており、厳しい財政の中で実施する大型公共事業である大学移転についても市会をはじめ厳しい視線が寄せられているところ。

そのため、市会・市民の大学移転への理解を得ていくことが不可欠であり、本学の文化芸術における京都市への貢献や、大学移転の意義をこれまで以上にアピールするなど広報活動や移転整備プレ事業などにも積極的に取り組んでいく必要があります。また、移転に伴い老朽化した機器等の更新も大きな課題となっております。これらには多額の資金が必要であることから、移転整備への寄付を大学を挙げて募っていくこととしており、卒業生、在学生の保護者の皆様、教職員や厚志の方々、企業の皆様方など広く広くご助力をお願いしてまいります。

象の会におかれましても、今後格別のご支援を賜りたく衷心よりお願い申し上げます。

(移転準備室)



更地となったC地区を西から望む(2020.12.24撮影)

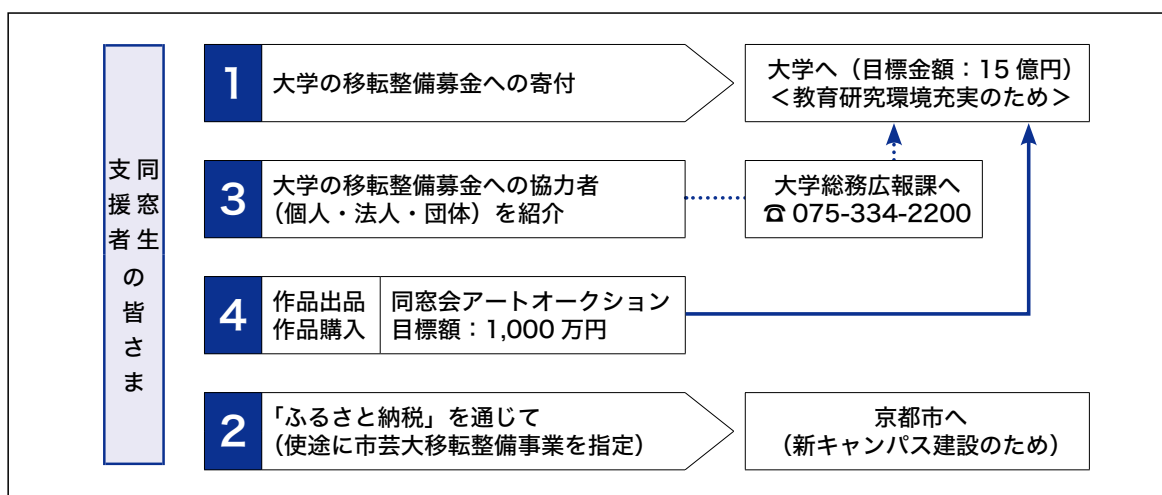
大学移転支援募金について =同窓会の皆様へ3つのお願い=

京都駅東部の大学移転予定地で既存建物の撤去工事などの準備が着々と進む中、移転整備に必要な経費の財源確保についても、京都市と本学が一体となって取組を進めております。必要となる財源は、新たなキャンパスの建物など基本的な施設の建設に約250億円(本学の設置主体である京都市が負担するもの)、移転に伴う教育研究環境の充実に約15億円(本学が負担するもの)という大変大きな金額となっております。

いずれも、京都市が厳しい財政状況にあること、また、本学としても健全な財政状況の維持を図りつつ経費の節減などの自助努

力により財源の確保に努めたいとしても、本学の収入には限りがあることから新たな財源を生み出すことには限界があり、本学の活動に御理解をいただける方々からの貴重な御支援に大きく頼らざるを得ない現状にあります。

そこで、同窓会の皆さまには、移転の趣旨を何卒ご理解いただき、約3年後に迫った2023年度の京都駅東部への大学移転の実現に向けて、次の3つのことについてお力をお貸しいただきたく御協力をお願いをさせていただきます。



1 「京都市立芸術大学 移転整備募金」への御協力をお願い

本学では、本学が自己資金で賄う必要がある、移転に伴う教育研究環境の充実に要する経費（約15億円）に充当するための寄付を募るため、今年度、「移転寄付推進委員会」を新たに設置し、「京都市立芸術大学 移転整備募金」への寄付の募集を開始しています。概要は以下のとおりです。

<「京都市立芸術大学 移転整備募金」の概要（※1）>

1 目的・使途

京都市立芸術大学の2023年度のキャンパス移転に伴い必要となる、教育研究のための機器・楽器の購入など、教育環境の充実に要する経費への充当資金

2 御寄付の単位

個人の場合 1口 1万円
法人の場合 1口10万円

3 募集期間

2024年3月末まで

4 目標額

15億円

5 顕彰

- (1) 新キャンパスに設置する芳名板への寄付者名の掲示（個人・法人とも10万円以上の寄付者。希望者のみ）
- (2) 本学主催の演奏会・展覧会への招待
- (3) ウェブサイト芳名録への寄付者名の掲載（希望者のみ）

6 寄付方法

- (1) 本学のウェブサイトからの御寄付（クレジットカードやコンビニエンスストア等でのご入金）
- (2) 金融機関窓口・ATMでの御寄付
- (3) 大学の窓口での御寄付

※1 寄付方法等の詳細につきましては、「京都市立芸術大学 移転整備募金 趣意書」又は本学ウェブサイト(<https://www.kcuu.ac.jp/contribution/itenseibibokin/>)をご覧ください。

本募金にいただきました御寄付は、学生が直接手を触れ、より活発な作品制作を行うための機器・設備の導入や更新などに大切に活用させていただき、移転後の教育研究環境を充実させてまいります。

会員の皆さまには、これからの芸術や社会を担う後進の更なる

成長のためにそのお力をお貸しいただき、是非、移転整備募金への御寄付に御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、公立大学法人京都市立芸術大学への御寄付につきましては、個人の場合は所得税や住民税の控除、法人の場合は寄付金の損金算入など、税制上の優遇を受けることができますので、是非ご活用ください。

2 京都市の「ふるさと納税」への御協力をお願い

京都市では、応援したい自治体に寄付ができ、寄付金が所得税・住民税の控除の対象となる「ふるさと納税」による寄付を募集しています。

この制度では、寄付金額の上限の範囲内であれば（※2）、寄付した金額から自己負担2,000円を除いた額が所得税・住民税から控除されることになるため、「寄付」とありますが、実質的には、自己負担2,000円で応援したい自治体に税金を振り替えることができる制度となっています（もちろん京都市にお住まいの方が京都市のふるさと納税（を通して寄付をとる）していただくことも可能です。ただし、その場合、後述のお礼の品をお受け取りいただくことはできません。）

ふるさと納税では、寄付する際に寄付者が寄付金の使い道を指定することができますが、京都市の場合、その使い道に「京都市立芸術大学移転整備事業」を指定していただくことができます。このようにして寄付していただくことにより、いただいた御寄付は本学の新たなキャンパスの建物など基本的な施設の建設に係る経費に充当させていただくことができます。



C地区北西角

また、京都市外にお住まいの方は、寄付金額に応じたお礼の品をお選びいただき、受け取っていただくことができます(※3)。寄付方法は、ウェブサイト(「ふるさとチョイス」など一般のふるさと納税サイト)からクレジットカードなどにより寄付していただく方法と寄付申出書を提出して金融機関などから寄付していただく方法からお選びいただけます。(※4)

本学の「移転整備募金」への御寄付と同様、京都市の「ふるさと納税」への御寄付につきましても、是非、御検討・御協力いただけますと幸いです。

※2 所得に応じて寄付金額には上限があります。この上限を超えた額については、税金から控除されず、自己負担となります。

※3 京都市内にお住まいの方については、お礼の品を受け取っていただくことはできません。

※4 寄付方法等の詳細につきましては、京都市のウェブサイト(<https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000186773.html>)をご覧ください。

3 個人、企業、団体等の御紹介のお願い

加えまして、本学からより幅広く寄付の御協力を呼び掛けさせていただくため、会員の皆さまとつながりがあり、本学の活動や移転に関心を持っていただけたような個人の方、企業、団体の方などを本学に御紹介いただきたいと希望しております。

御紹介いただいた方々に本学からアプローチさせていただき、本学の概要や活動、京都駅東部への移転などについて説明させていただいたうえで、本学の「移転整備募金」や京都市の「ふるさと納税」への寄付の御協力をお願いさせていただきます。

また、本学が京都市外の企業につきましては、「企業版ふるさと納税」の制度を利用していただくことで大きな税控除を受けていただくことができますので紹介させていただきます。

「企業版ふるさと納税」とは、ふるさと納税の企業版と言えるもので、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄付を行った場合に、法人関係税から税額控除される仕組みで、最大で寄付額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が約1割に圧縮できる制度です。認定された京都市のプロジェクトとして、「文化芸術振興」を選択していただき、具体的に「京都市立芸術大学の移転整備」を指定していただくことで、本学の移転整備に活用させていただくことができます。

この制度は、本学が京都市内に所在する企業の寄付は対象外となりますが、本学が京都市外にある企業にとっては、非常にメリットがある制度となっております。



B地区を北から望む

このように、寄付をしていただく制度も複数用意されておりますので、個人・法人や、京都市内・市外の別に関わらず、お知り合いを御紹介いただけますと幸いです。

皆さまには、御紹介いただいた方々に本学が連絡させていただく方法を相談させていただいたり、仲介をお願いさせていただく場合も出てくると思いますので、重ねてのお願いで誠に恐縮ですが、その際は何卒御協力をくださいますようお願いいたします。

もちろん、お心当たりの方に会員の皆さまから寄付について直接お声がけいただくこともお願いできればと思います。

<お問合せ・情報提供先>

公立大学法人京都市立芸術大学 事務局総務広報課寄付担当
〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町13-6
TEL 075-334-2200
FAX 075-332-0709
E-MAIL itenseibibokin@kcua.ac.jp

本学の移転を実現させ、使命を果たしていくため、本学及び京都市だけではなく、同窓会の皆さまをはじめとする卒業生の方々や、本学の関係者、また、本学を愛していただいている多くの方々と心をつなげて、共に一丸となって取り組んでまいりたいと考えており、是非とも皆さまのお力添えが必要です。

現在の厳しい社会・経済情勢の下、誠に心苦しいお願いばかりではありますが、本学の移転についてその趣旨をご理解いただき、御協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

4 「同窓会アートオークション」の開催 <2023年1月/ギャラリー@KCUA>

同窓会では、大学の移転時に必要な機材など、教育研究環境充実のため、「アートオークション」を開催し、同窓生の皆様方の作品を出品いただき、その作品の売上金を「大学移転整備基金」に寄付することによって母校の発展に寄与したいと考えています。

2016年3月にも同趣旨で「アートフェア2016」を開催し、1,000万円を大学へ寄付いたしました。その2回目の実施計画を進めている昨年春に、新型コロナが世界を席卷し、止む無く2022年春まで延期することになりました。しかし、コロナ禍は今も収束の気配が無く、京都も2回目の緊急事態宣言が発出された状況です。

オークション実行委員会で今後の見通しや開催するための条件について検討を重ねた結果、次のことを確認しました。

- ① コロナ禍が収束するなど開催環境が整うまでは延期する。しかしオークションの中止は考えない。
- ② この原則に照らせば、一旦延期と決めた2022年春の開催案は、可能性が低くなったと判断されるので、2023年1月まで開催を再延期し、大学移転を祝うアートオークションとの趣旨で実施するプランに変更する。
- ③ この案を2020年7月開催の役員総会で決定した上、会報(ホームページ)で周知し、作品募集(エントリー)などを始める。

同窓生の皆様には、ぜひとも作品を出品いただき後輩の教育研究環境の整備にお力添え下さいますようお願い申し上げます。出品が困難な場合は、前述の「移転整備基金」へのご寄付、オークションでの作品購入などでご協力賜りますようお願い致します。

(同窓会アートオークション実行委員会 委員長 望月重延)

大学名称裁判傍聴記 =次回は3月4日(木)=

・2020年12月11日の11時から大阪高等裁判所別館83号法廷において、第1審の判決（控訴棄却）を不服として原告（母校側）が控訴した裁判の第1回口頭弁論（公開）が開かれました。

【令和2年（ネ）1912号、不正競争行為差止請求控訴事件、第8民事部ハ係担当】

原告（母校）側は宮川美津子弁護士ほか6名、被告（瓜生山）側は牛島信弁護士ほか4名が代理人として出廷し、裁判所は山田陽三裁判長、倉地康弘、三井教匡の両裁判官、濱田元樹書記

官の4名が出廷しました。傍聴人は9人。母校や市の職員を除く顔ぶれの多くが同窓生だと思われ、コロナ禍で赤信号点灯中にも関わらず傍聴される姿勢に関心の高さを感じました。

口頭弁論は15分ほどであっけなく終わりました。今後の裁判の論点整理と次回開廷の日程調整だけでしたが、双方弁護士によるジャブの応酬に興味を憶えました。次回は、同じ法廷で本年3月4日（木）の16時から開廷と決まりました。

（代表幹事：野崎邦雄）

大学名称問題の取り組み報告 =大学へ150万円を寄付=

●京都芸術大学の名称を守る署名の取り組み

署名総数（2020年1月～12月）

23,100筆（署名用紙17,824、web5,276）

11月末の数字（22,684筆）を弁護士を通じ裁判所へ提出しました。

●大学名称裁判支援カンパの中間報告（2020年12月末現在）

カンパ総額1,890,000円

（個人カンパ1,390,000円、206人）

（象の会25万円、真声会25万円）

この内、150万円を11月に大学へ寄付しました。今後も随時大学へ寄付してまいります。



C地区構内

御礼（訴訟に対する御支援について）

同窓会象の会の皆様には、日頃から大学運営に多大な御協力をいただきありがとうございます。

この度、旧京都造形芸術大学が「京都芸術大学」の名称を使用することを差し止める訴訟に対し、象の会、真声会両同窓会様から訴訟費用として多額の御寄付をいただきました。ほんとうに、ありがとうございます。

現在、訴訟は大阪高等裁判所にて控訴審を争っており、両同窓会様で集めていただいております署名などの新たな証拠も加えて主張しております。両同窓会様からの御寄付や署名は、訴訟を継続するに当たって大きな支援となるだけでなく、改めて、皆様が母校を誇りに思い、応援し続けてくださっていることを実感し、大変力強い思いです。

旧造形大が名称を変更した4月以降、「ややこしい」「紛らわしい」といったお声を多数頂戴しております。これ以上の混乱を生じさせないために、市民の財産である本学の名称を守ってまいりますので、引き続きの御支援、どうぞよろしくお願いいたします。

京都市立芸術大学理事長 赤松玉女

大学名称裁判の支援カンパお願い

- 本裁判は控訴審で判決が出ても、上告など裁判の長期化が予想されます。その結果、裁判に係る経費も膨らみ、この裁判を支援する多くの同窓生や支援者の皆様からのカンパが重要な役割を果たします。
- 美術／音楽両同窓会は、この裁判で勝利を勝ち取るまで支援してまいります。ついては、同窓生による引き続きの署名活動と裁判支援カンパについて心強いサポートをお願い申し上げます。
- 反対署名は今までどおり、署名用紙（10人まで連記可能、足りない場合は同窓会事務局へ請求ください）またはWEB署名の方法でお願い致します。（同窓会のホームページ：トップの「名称を守るための運動Enter」から入れます）



国道9号線の道路案内標識

- 裁判支援カンパは、次の両同窓会連絡協議会名義の郵便振替口座へ振り込んでくださいますようお願い致します。（匿名ご希望の場合はその旨記載してください）

【カンパ振込先口座】

ゆうちょ銀行 振替口座番号 00970-4-197391

口座名義 京都市立芸術大学同窓会連絡協議会
他銀行からの送金の場合

（店名）〇九九店（店番）099 当座 0197391（口座番号）

- 寄付金控除をご希望の場合は大学へご相談ください。（総務広報課）

新任あいさつ（2020年4月新任）

共通教育 美術教育研究室 教授

飯田 真人



美術教育を担当しています飯田真人です。90年油画卒業、92年に大学院を修了しています。本学を卒業してから大方30年ぶりの沓掛に赴任することになりましたが、残念ながら4月に学生の姿はありませんでした。ようやく自粛期間が解かれ、教職講座がパソコンを使った遠隔授業としてがはじまり、画面を通してですが学生たちと顔を会わせられるようになりました。また、多くの中学校や高等学校の授業が再開され心配しあふ更などその対応に追われる忙しい毎日でした。よくわからないまま始まってしまった感じではありましたが、この2020年は忘れられない年になると思います。さて、久しぶりにこのキャンパスに足を踏み入れたわけですが、ふと丸池前に立つと学生だった頃の思い出がまるで昨日の出来事のように錯覚することがあ

ります。木々が茂り建物が増えたり、学生の姿が時代とともに変化したりしているわけですが、変わらぬ空気を感ずることが出来ます。これは他の大学にはないことだと思います。移転する前に沓掛で過ごせることを嬉しく思います。しかし、いつまでも思い出に浸っていても学生にとってはただの昔話です。今の京芸生が充実した学生生活を送れるようにしっかりと学びを提供していきたいと思っています。特に今年このような状況ですので尚更のことです。これからの京芸や美術教育に微力ながらも貢献できるように皆様のお知恵をお借りしながら精進して参ります。今後ともよろしくお願ひします。

日本画研究室 准教授(日本画模写)

正垣 雅子



この度、日本画研究室に着任しました正垣雅子です。小塩山の風光や校舎に懐かしさを覚えつつ、社会の様々な変化に接し、我が世誰ぞ常ならむという想いです。新たな場所、新たな人との間で始まる全ての事象に期待と肅然をもって迎えようと思います。私は、日本画模写の観点から日本および東洋絵画の表現研究をしています。近年は中央アジアの石窟壁画やチベット仏教文化圏の絵画に関心があります。現地に身を置き、当時の絵師の姿勢や仕事に心を寄せ、表現を読み解き、自分の感性と手技を通した追体験と再現をすることは実に愉快なものです。何事においても、私たちはその土地、風土が育んだ美意識、これまで守り伝えた人々の想いの連続を享受しています。私は古きを尋ね、現

在を考察し、感性と手技の研鑽にこれからも精進していきたいと考えています。京芸は、「芸術」という理念に向かって多様な人たちが同居し、交流し、化学反応が生じる場所だと思います。私自身、恩師をはじめ日本画専攻の先生方の制作姿勢、思想、指導は自身の礎となりました。他専攻、学科の先生方の専門性に大いに刺激と影響を受けました。「清流無間断 碧樹不曾凋」の如く、140年間の諸先輩の芸術の相承と活性を有した本学の来し方行く末に想いを馳せ、未熟ながら自身の研究と教育の可能性を自問し努めたいと思っています。何卒どうぞよろしくお願ひいたします。

プロダクト・デザイン専攻 特任講師(デザイン研究/哲学・社会学)

谷川 嘉浩



京芸では、考えることが好きだ、色々学ぶことが大事だと述べる人にしばしば出会います。とはいえ、意気込んで考えようとするとき、身体がこわばって「言葉でっかち」になってしまうこと、わかったつもりになることも多いように見えます。右足と左足を順番に動かせば誰でも容易くエベレストに登れると信じている人はいないにもかかわらず、「考えること」については、誰でも努力や練習なくできると思いがちです。思考には、登山のように道具や練習が必要だということです。

自分なりに考えてやったはずのことが、平凡でつまらなかつたり、人や環境を傷つけたりすることはよくあります。一人で悶々と悩んだ結果出てくるのは、自分が知らずに内在化している「慣習」を表現し直したものにすぎないからです。けれど、私たちが思考し、想

像し、表現するのは、「今の自分の届く以上のもの」に手を伸ばすためではないでしょうか。

そのためには、自分の力だけで創造的になれると思うのを止めて、自分以外の存在の力を借りる必要があります。だからこそ、誰かの作品に触れたり、誰かと話し合ったり、声を聞いたり、過去から学んだり、本を読んだりするのです。いずれも、自分以外の存在、つまり「他者」に触れる行為だと言えます。教員として、学生が今の自分自身を超えていく手伝いができればと思います。

ちなみに、株式会社Infomartから受けたインタビューがウェブメディア「Less is More.」で公開されています。「常時接続で失われた孤独。あるいは「長い思考力」というタイトルです。ぜひ検索してみてください。

翟建群



今年4月から日本画研究室に特任准教授として着任した翟建群(テキ ケンゲン)です。1998年から2002年まで京芸の日本画専攻で勉強しました。ちょうど上村淳之、岩倉寿、山崎隆夫、小島悠司、宮本道夫、浅野均、小池一範などの先生がいらっしゃった時期でした。先生方の謙虚な人柄とあくまで理想を追求する姿勢は私の灯台となりました。

100年前に、菱田春草は日本画が画材にこだわらない日が必ず来ると言いましたが、今はまさにその時代です。しかし、岩絵具の美しさは捨て難い。グローバル化の現在、国境、或は東西までも特に意識する必要

もありませんが、育ててくれた伝統を生かすことも道の一つだと思われます。

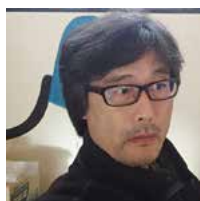
400年前に、中国の画家董其昌が「万巻の書を読み、万里の路を行く」と言って、伝統に学ぶことと視野を広めることの大事さを強調しました。これが後の画家と知識人の理想となりました。2005年帰国後、私も制作しながら、国内外で写生、調査を行ってきました。

これからも自然、伝統、そして岩絵具に敬意をもちつつ、自分の可能性を探りながら制作して行きたいと思います。

退任にあたって (2021年3月退任予定)

造形計画研究室 教授

井上 明彦



退任の挨拶にふさわしくありませんが、私の研究室の抽出には退職願がずっと入っています。私のポストが一般教育と芸術学の争点だったとは知らずに赴任し、たちまち両者の対立に巻き込まれてしまったからです。文化人ぎらいの旋盤工の倅の私はもともと無頼の人間で、大学教員の職に執着もなく、教授会に謝罪を求める暴挙に出ました。芸術教育での実技・芸術学・一般教育というヒエラルキーを語る芸研の教員に幻滅し、美術が専門であるにもかかわらず、一般教育(のち共通教育)領域で「造形計画」と名乗る研究教育を単独で追求することにしました。

造形計画は、造形Plastic の語源通り、物質的素材のみならず、知覚や認識、価値観も「可塑的なもの」として捏ねる可能性を追求するものです。美術もデザインも工芸も見境がなく、芸術と科学、芸術と日常の技術との差別とも無縁です。すべては偶々で可塑的で流動的です。もっともこの考え方は美術活動を通じて見出し、私自

身を養ってくれたものです。その意味では少しでも美術に恩返しする必要がありました。

私の師は大学の先生ではなく在野の芸術家でした。私自身も学務が苦手で、やはり教員には向いていなかったと思います。学生の中から創造的な活動や思考が生まれると私自身が楽しい、それだけが京都芸大に身を置く理由でした。とはいえ学科教員でありながら文化庁新進芸術家在外研修に出ることを許してくれ、駄洒落でつくった「@KCUA アクア」の語をギャラリーに冠し、座学だったテーマ演習を改編して学内に土の家をつくることを認めてくれた(2年間反対されましたが)のもこの大学でした。一番すごいのは、土や竹を運び込むために非法に改造していた鉄柵に門を付けて下さったことです。ひょっとして私以上に無頼な人が京芸には多いのかもしれませんが。阪神大震災の年に赴任し、コロナ禍の中で京芸を去ります。25年間ありがとうございました。

環境デザイン研究室 教授

堀口 豊太



京都芸大に着任して気づいたのは、学生たちが自分たちを取り巻く環境についてほとんど意識していないことでした。

西洋から多くを学んできた日本ですが、歴史的な視点から環境について思考するという、西洋では当たり前のことが根付かなかったようです。その結果、日本の環境は悪化しました。三十になるまで南米や北米に住んでいたせいもあったと思います。今の日本の環境に違和感を覚え、まずは芸術を学ぶ人が環境について語り合うようにならねばならないと思いました。周りの環境というものに目をやる。次にそれをどうすればましなものになるのかを考える。これを本学で教えたいと思いました。

自分の専門分野は建築でしたが、それを軸に教えるのは控えました。個々に優れた建築を連ねても良い環境には繋がらないからです。個々の建物が反復して道ができ、その道の集積が街となりますが、街全体の姿を想像せず、その単位でしかない建物を個々の表現や

都合に委ねた結果が今の日本の姿です。この混沌を珍重すべきという意見もありますが、それは日本に限らず意識されていない環境の常なのです。学生に環境の優劣について意識する慣習を身につけるように、環境に目を向けるのに有益な課題を課すよう努めました。

例えば総合基礎実技では、姉小路通をどういう道にしたいのかを想像しながら、学生各自が担当する敷地に建つ京町家の意匠を、模型制作をもって考案しました。模型が並び、道の姿が立ち上がるのを1回生全員で見届けました。この課題を通じて、自分が作る小さなものが、大きな環境の形成にどのように影響するかを学ぶ機会を学生に与えようと思いました。

かつて世界にも稀に美しい環境を知らずして有していた日本です。今後の日本において誇れる環境が形成されることを望み、大学教員という立場から少しでもそれに貢献できたことを祈っています。この細やかな試みを支えてくださった皆様に感謝いたします。

保存修復研究室

宇野 茂男

大学院美術研究科 保存修復 教授

保存修復専攻は、大学院の修士・博士の専攻のみです。新研究棟(博士棟)ができた2000年に設置され、当初は日本画の模写室に修士の部屋がありました。私が着任した2012年の翌年から中央棟4階に新たに実習室を設け授業を行なっています。(修復実習は旧音高)

中央棟4階に移ってから、保存修復専攻は教員3人(一人は兼任)体制となり授業を進めております。教員は学部を含む講義科目も担当しながら専攻を運営しています。授業は、1、模写を通じて伝統的日本絵画の表現や技法、知識、精神(思考)を深く学ぶ。2、文化財科学の手法を用いて調査研究を行い、知見を深める。3、芸術学からの視野を取り入れ幅広い知識を得る。4、修復理論を学び技術を身に付ける。と言った4つのテーマを融合させながら進めております。



模写では、古色蒼然とした模写をするのではなく、作品本来の優れた芸術性や魅力を学ぶ事を重点に指導しています。模写を通して養った目は、物を観察・考察する力となり、文化財の調査でもその力を生かし、文字による記録に加え手作業による「写し」なる作業を行い調査対象の作品をよく知るよう指導しています。

このことは、文化財の復元にも役立ち、科学の力と芸術学の広い視野を融合させ復元性の高い作品を考える事ができると考えます。

また、近年の日本画には用いない伝統的日本絵画表現を継承することも専攻では大切だと考えています。知識だけではなく、日本絵画の感性や美意識を発見し、伝統を生かした新たな創作を進めることが継承につながると思っています。

修復技術を身に付けますが、修理技術者を養成する場所ではありません。大学で養ったノウハウを文化財修復に幅広く生かし活躍する人材になって欲しいと考えます。卒業生は文化財修復関連に就職、または研究者となっています。



少し将来の妄想を膨らませば、先に述べたような人材を育て、大学で養った研究を伴う文化財のノウハウを発揮できる場を設けてみたいです。それは卒業生の働く機会を増やす事にも繋がるのではないかと妄想しております。小さな専攻ですが教員・学生とも頑張っております。



現在、学生は修士4名・博士6名・研究生2名が在学しています。専攻の特性から他大学からの流入も多く、日本画を学んだ学生はもちろん、他の分野の学生や、社会人になってから入学する学生もいます。また、留学生も多く在籍しております。中でも、社会人になってから入学する学生は、若い学生に混じって研究をする姿はパワフルです！いやそれ以上かもしれません。大学を卒業した人の中には、「あれをしておけば良かった」「これを学べば良かった」などと聞くことがあります。そんな経験があるのか、入学すると、自分が何をしなければならなのか、そのために何が必要かがしっかりあるようです。私などは年を追うごとに無理が効かなくなって来ました。そのせいかそんな学生に対して「ボチボチ進めなさい」「大学に毎日来なくても良いですよ」とアドバイスするぐらいです。(これがアドバスと言えるのか？分かりませんが)人間いくつになっても好奇心と勉学する心は大きなパワーなのかもしれません。人生一生勉強です。卒業された皆さん、まだまだこれからです。好奇心と勉学する心を忘れなければ長生きできるかもしれません。頑張るのはボチボチですけど。

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

てらかわ あかね
寺川 茜

2017年(平29)染織専攻卒業

「名前にまつわるエトセトラ」

こんにちは、寺川茜です。フランスはパリで生活を初めてもうすぐ2年を迎えようとしています。言語も生活も慣れてきたかと思えばまたこんなところに知らない扉があったのかと日々寄り道をしながら階段を少しずつ登っているようです。

さて、私は学生時代は茜ちゃんと呼ばれたり、ニックネームであかねん、などと呼ばれていました。2017年に卒業後、会社勤務時は寺川さん、そこから派生しててらちゃん、てらさん。パリへ来てからは学生をしり企業で研修したりしていますがどこへ行ってもAkaneと呼ばれ、こちらで出会う日本の方にも茜ちゃん、茜さんと呼ばれています。日本では大人になるほど初対面でいきなり下の名前と呼ぶことは抵抗があったり、立場や環境で呼び方を変えています。そしてどれも私でありながら、茜ちゃん/寺川さん、それぞれスイッチが違っていると感じます。寺川さんの時の方がちゃんとしなないとあつと背筋を伸ばしています。社会に出ている私、という感覚です。ですが、パリでAkaneと呼ばれながら生活しているとどの場面でもAkaneでいる、つまりいつも同じスイッチの私でいると感じます。初めての場所ではもちろん緊張もしますが、変に体裁などを気にせず私のままでいれること、名前の呼ばれ方で変わることが最近の発見です。

言語が違うから精神性も違う、文化も違う。大学時代、こんな自由な環境があるのかと自分の殻が破けていくのが印象的でしたが卒業しても年々、また殻が破けどんどん軽やかになっているのがとても面白いです。



夜のセーヌ川を散歩するのが好きです。



次号に紹介される方は、
じょう あいね
城 愛音さん

2017年(平29) 油画専攻卒業
2019年(平31) 絵画専攻(油画) 修了

た なか かずよし
田中 一好

1971年(昭46)西洋画科卒業

1973年(昭48)専攻科修了 剣道部



画廊ぶらんしゅ(池田市)での個展 2020.7.8~19

「Things have changed」

「田中君、今は教師やりながら絵を描いていくの難しいで」もう亡くなられた教職のK先生の言葉だった。「以前は授業中でも、生徒らにさせといて、準備室で出品作を描くということやってたけど、今は管理が厳しなってきたからな…」と、50年ほど昔のことだった。

授業中ではともかく、確かにそうだろうと思った。しかし、企業に就職しての制作は無理だと当時は思った。また、大学を出てからも親に負担をかけることはできなかった。

K市の教採を受験し合格した。適性があるとは思えない教員の誕生だった。初任は指導困難校という某中学校だった。とても制作どころではなかった。これではいけないと思い、来年個展をしたいと、O市にあったS画廊をお願いした。今は故人となる画廊主のYさんには、以後随分お世話になった。一方教職も経験を積むほどに様々なことが見えるようになってくる。40歳半ばから定年までは一段とハードだった。多くの出会いは貴重な体験となっている。

で、細々と続けてきた表現行為は？ 錯覚かも知れないが、少しは見えるようになった気分である。今しばらくは妄想を楽しんでみようと思っている。

ところで、同窓会名簿も自分達より前のページがぐっと薄くなったように感じる。もうそろそろということなのだろうか。えっ！何が？



次号に紹介される方は、
かんの りつお
神野 立生さん

1969年(昭44) 日本画科卒業
専攻科修了

学内消息（資料）

(2020年1月～12月)

1月11日～	1月26日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol.15 笠間弥路 個展「Dancing ghost」(元崇仁小学校)
1月18日～	1月19日	2020年度大学入試センター試験
2月 8日～	2月11日	2019年度作品展(本学構内・元崇仁小学校)
2月 8日～	2月11日	2019年度博士有志展「INTERIM SHOW」(大学構内)
2月15日～	3月 1日	森山佐紀・山西杏奈「朝と夜、森にて」(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
2月15日～	3月 1日	横田学教授退任記念展「つなぐ・つながる」(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
2月25日～	2月26日	2020年度美術学部入学試験
2月29日～	3月 8日	金氏徹平准教授、アメリカにて研修
3月 3日		2020年度大学院美術研究科博士(後期)課程入学試験
3月 6日		2020年度美術学部・大学院美術研究科博士(後期)課程合格発表
3月 7日～	3月22日	浅野均教授、大野俊明特任教授、中ハシクシゲ教授、三橋遵教授退任記念展「京都芸大と私たち」(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
3月23日		2019年度卒業式・学位記授与式
3月24日～	10月31日	駅ナカアートプロジェクト2020 デザイン科学学生の作品を展示(地下鉄二条城前駅)
3月31日		浅野均教授、大野俊明特任教授、中ハシクシゲ教授、三橋遵教授、横田学教授退任
4月 1日		正垣雅子准教授、翟建群特任准教授、人長果月特任准教授、谷川嘉浩特任講師、飯田真人教授着任
4月 1日～	12月31日	国立高等美術学校(フランス)交換留学生受入れ
4月 4日～	7月26日	京芸 transmit program 2020 (京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA) ＜新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2020年4月11日(土)～6月1日(月)まで臨時休館＞
6月27日～	8月 2日	芸術資料館収蔵品展 第3期「京都市立芸術大学 創立140周年記念展」
7月 1日		創立記念日
8月 8日～	8月30日	道にポケット(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
8月 8日～	8月30日	おかんアートと現代アートをいっしょに展示する企画展(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
8月23日～	8月30日	美術学部オープンキャンパス(WEB上)
9月12日～	10月25日	京都市立芸術大学創立140周年記念／開館10周年記念展 京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品活用展／横内賢太郎「誰もに何かが」(Something for Everyone)」(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
9月15日～	10月18日	芸術資料館収蔵品展 第4期「南宗憧憬—京都芸大の中国絵画 田能村直入寄贈品を中心に—」
9月23日～	11月11日	2021年度大学院美術研究科修士課程入学試験
10月24日～	11月29日	芸術資料館収蔵品展 第5期「近代の写生 こころとかたち」
10月31日～	11月 2日	京都市立芸術大学芸大祭2020(WEB上)
11月 7日～	12月20日	パシェ音響彫刻 特別企画展(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
11月19日		2021年度大学院美術研究科修士課程合格発表
12月15日～	12月21日	第31回留学生展(大学構内)

会員展覧会

(2020年1月～2021年1月) ■同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。同窓会のホームページにも掲載しています。

会員作品展		
3/2～8	長谷川睦展 万緑のきわ	OGALLERY-UP・S ①
3/8～22	善住芳枝展	トアロード画廊
3/16～22	小曾根環展 -packaged memories-	OGALLERY
3/16～28	真木智子展	ギャラリー白
3/16～28	河合美和展	ギャラリー白kuro
4/15～21	重岡良子展 一刻の雫	高島屋京都店 美術画廊
6/17～22	並河富美代展「いのち」～樹・草・花～	アートデアート・ビュー ②
7/8～19	田中一好展	画廊ぶらんしゅ ③
9/1～10	井上よう子展 静かなる青、そして光	枝香庵Flat
9/19～27	アトリエ公開 岡田親彦	ガラスアトリエ岡田 ④
10/20～25	松谷陽子水墨画展「影をたどる」	ギャラリーPaw
9/12～23	大森翠展	ギャラリー島田 ⑤
9/23～29	旅する心 有賀麻里 洋画展	阪急うめだ本店 7階 美術画廊 ⑥
11/1～29	出井豊二作品展	杉本家住宅「京都女子大学KOMEGLAキャンパス」 ⑦
11/16～28	小曾根環展 -packaged memories-	ギャラリー白
11/24～29	田中直子 小品展「樹の話」	ギャラリーヒルゲート
12/8～13	谷内春子 -思考する風景-	ギャラリー恵風 ⑧
2021/1/7～17	井俣慶人展	ギャラリー恵風 ⑨
2021/1/16～21	金井良輔展 57	TOR GALLERY



⑪



⑤

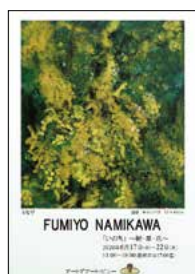


④

会員グループ展		
1/6～11	第8回 21世紀関西女性絵画展 京都芸大同窓生 他	兵庫県立美術館ギャラリー
1/28～2/9	創造する画家たち展 大森翠 他	ギャラリーCreate洛
2/4～9	第58回 京都銅版画協会展 京都芸大同窓生 他	京都府立文化芸術会館 ⑩
2/25～3/1	GOOD ART 44rd Exhibition はるはあげの 京都芸大同窓生 他	GALLERY MARONIE
3/7～3/22	京都芸大と私たち 浅野均、大野俊明、中ハンクシゲ、三橋道	京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA ⑪
3/21～4/5	京都空想装幀室 藤井敬子 他	アートゾーン神楽岡
3/24～29	京都空想装幀室 藤井敬子 他	ギャラリー恵風
4/25～6/14	特別展 それぞれのながめ 河合美佳、児玉靖枝、増田妃早子、渡辺智子	徳島県立美術館
6/8～20	いきづく空間ー見えぬものをつかまえる 長谷川睦 他	ギャラリー白
7/6～12	いきづく空間 長谷川睦 他	Oギャラリー
7/7～19	自我像展 吉田孝光 他	GALLERY MARONIE
7/14～19	2020 京都銅版画協会 ミニアチュール展 前川秀治 他	ギャラリー ヒルゲート
7/18～8/19	2020年特別企画展 未来園から！ 京都芸大同窓生 他	ギャラリー島田
9/15～20	第35回 反核・平和のための小品展 落合 峯子、荒瀬 隆造 他	ギャラリー佐野
9/22～27	2020京都双線美術展 京都芸大美術教育研究会 京都支部会員	ギャラリー吉象堂
2021/1/10～16	第58回 大阪双線 美術小品展 京都芸大美術教育研究会 大阪支部有志	大阪現代画廊・現代クラフトギャラリー
2021/1/15～2/7	創立75周年記念 京都工芸美術作家協会展 京都芸大同窓生 他	京都文化博物館
2021/1/28～2/2	京都府私立中・高美術工芸教育研究会 会員作品展2020 京都芸大同窓生 他	ギャラリー中井



①



②



⑩



⑧



⑦



⑥



③

TAKABAYASHI WASAKU



- 1950年～1965年まで15年間、西洋画科の教授だった高林和作先生の作品展が、大阪府堺市の「さかい利晶の杜」で開催されます。同窓会に広報の依頼がありましたのでお知らせします。

高林和作展 —サバクに立つ画家の眼差し—

2021年2月13日(土)～3月21日(日)
会場：さかい利晶の杜

オンライン芸大祭2020の報告

令和2年度オンライン芸大祭が無事終了しました。

ホームページへのアクセス数は、1日目が5873アクセス、2日目が2030アクセス、3日目が3337アクセスで、合計11240アクセスでした。予想していた以上にアクセスいただき、遠方の方や海外の方にも楽しんでいただけたようです。

インターネットで開催するイベントだからこそ発生する、音源使用に関する著作権など様々な問題が開催の直前まで起こり続けたが、なんとか学生自身で解決し、開催期間中も大きな問題が起こることなく、無事に終えることができました。



オンライン開催という初めての試みでしたが、どんな状況になっても最善策を考え続け、企画を実行し、実施することができたのは何よりの自信になりました。御協力いただき、ありがとうございました。

芸大祭実行委員長 秋井奏(美術科2回生)

- 2020年8月、**美術学部長が交代**されました。
退任/中原浩大<彫>、新任/小山田 徹<彫>

おめでとうございます

- ▶ 2020年10月27日、森口邦彦氏(1963年日本画卒)が文化功労者に選定されました。
- ▶ 2020年11月7日、上村淳之先生(1957年日本画卒)が旭日中綬章を授賞されました。

- 2020年度の「**同窓会展**」は、同窓会アートオークション開催予定のため開催しませんでした。2023年1月のアートオークション開催後まで「同窓会展」は休みます。

- 「**芸大作品展**」は、2021年2月10日(水)～14日(日)に会場を本学と久しぶりに岡崎の市京セラ美術館に戻して開催されます。後輩の力作をぜひ見に行ってください。

● 2020年度議案の議決権行使結果報告

コロナ禍で中止となった2020年総会(7月5日)で審議予定だった6議案について、ハガキ返信による議決権の行使で採決することとし、その回答期限を9月30日と定め、集計した結果は、

次の通りでしたので報告致します。(ホームページでも報告)

返信総数	542通
全議案を承認	528通(97.4%)
4号議案不承認	1通(0.2%)
6号議案不承認	1通(0.2%)
無効	12通(2.2%)

この結果、全議案が承認され、2020年10月1日から新たな活動方針と予算、役員、改正規約で活動を開始しました。

● 「同窓生名簿2020」を頒布中。

2020年8月に大学創立140周年を記念する新たな同窓生名簿を発行しました。1冊4千円で頒布しています。購入を希望される方は、電話・FAX、メールなどで同窓会事務局へ連絡ください。入金、送付先が確認でき次第すぐに送付(送料無料)いたします。

- 本会報(72号)は経費削減のため会費未納者には送付していません。
- 訂正(会報71号)リレートークの武藤 桃さんの卒業専攻を 油画→構想設計にお詫びして訂正します。

次の場合は、事務局までご連絡ください

● 同窓会後援名義使用

同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援名義使用を希望される方。

● 展覧会の案内、情報の掲載

同窓会へ送っていただいた展覧会の案内や情報は、同窓会ホームページや会報に掲載しています。ホームページへ掲載希望される方は、DMなどをなるべくメールで送ってください。

● 満80歳以上の会員で会費免除

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で希望される方は、年会費を免除できます。

● 氏名、住所、電話、FAXなどを変更された時

お忘れになると会報などの情報をお届けできなくなりますので、郵便、FAX、メール等の方法でご連絡ください。同窓会ホームページの住所変更フォームからも変更できます。

編集後記

- 昨年の1月16日、日本国内で初めての新型コロナウイルス感染者が確認されてから一年となり、私達の生活や意識も大きく変化しました。本学でもリモート授業を含め、学校生活や学内環境に工夫を凝らし、対面での実習授業も行いながら、何とか無事に今年度乗り切ったような状況です。
- 同窓会象の会も同様、活動に大きな制約を受けながらも、望月新会長のもと、可能な活動を行っています。特に、校名問題では、控訴後の大学を支援するための署名や裁判費用のカンパを募る活動を継続しています。これまでご協力いただきました同窓生の皆様に感謝いたしますと同時に、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、2023年に予定されている大学移転に向けて、整備支援事業である「アートオークション」も2023年1月に開催する計画で、実行委員会検討を重ねています。

- コロナの収束を目指すにはまだ、我慢と時間を要しますが、この一年でただ単に恐れるだけではなく、コロナ対策の要点もつかめてきたようにも思えます。歴史を振り返っても、多くの感染症を人類の英知を結集し克服してきました。今、新型コロナウイルスに対してもワクチンが開発され、日本での使用に期待が集まります。今年はオリンピック、パラリンピックも開催される予定です。“With Corona”コロナと上手に付き合いながら、少しずつこれまでの日常を取り戻すため力を合わせ、助け合いながらこのコロナ禍を乗り越えていきましょう！
どうぞ皆様、お身体には十分にお気を付け下さい。

- 最後にりましたが、本報72号発刊にあたりご投稿、ご協力いただきました方々に厚く御礼を申し上げます。引き続き、皆様のご投稿、ご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

(同窓会報編集委員長：阿部 緑)